

令和元年度 研究の成果と課題

《成果》

○グループ学習の充実。

グループ同士の見合いの方法では視点を絞って見合うことを取り入れた。

どの学年も活発にグループ学習に取り組んでいた。

低学年は○△と示すだけではなく言葉を使ってアドバイスができるようになった。

中・高学年はICTを活用し、自分を知ったり、どうやったらできるようになるか分析したりグループで見合いに活用した。

同じ技能レベルのグループ・様々な技能レベルのグループなど、適している課題や単元についての吟味ができた。

授業以外でも教え合いや友達を称賛する場が多く見られている。



○児童がゴールイメージをもって取り組む姿勢が見られた。

○段階的な指導計画

同じ領域で研究することで教員同士、感覚づくりの共通理解をもち研究ができた。



○学習過程の工夫

「感覚づくり」を毎時間、どの学年も取り入れた。単元で押さえない動きを「感覚づくり」

に入れることで動きの習得や高まりが見られた。(手にしっかりのって体を支える、軸ができるなど)感覚づくりが技の習得に繋がり、技能が高まっている。

ポイントを押さえて帯で、技に取り組んだり、次時で深めたり学習過程の工夫で技能を高めることにつながった。児童自身の振り返りを大切に次時につなげる。



学習過程 例

学習場面	時	学習活動
高める 興味や関心を	1	<u>オリエンテーション</u> 1 学習の進め方を知る 2 既習の学習の振り返りを行う 3 目的意識をもつ
課題を見付ける	2	<u>知る時間</u> 4 技に取り組む 5 自分の課題を見付ける ○学習資料から課題の解決に向けた活動（練習の場や段階）を選ぶ 6 学習計画を立てる
決に 取り組む	3 ～ 6	<u>取り組む時間</u> 7 めあてを確認する 8 課題の解決に取り組む
を修正し、 新たに設定する	3 ～ 6	<u>学習の振り返り</u> 9 学習ノートの振り返り項目に○印を付ける 10 技のできばえを振り返り、どうしたらできたのか、できなかった時には、どこまでできたのかを書く 11 新たなめあてを選択したり、修正したりする 12 次の時間のめあてを選択する

○教員・児童共に技の理解が深まった。「系」「技群」「グループ」という視点で分類を行った。

《課題》

- 課題別学習にすると自分ができているかの判断は難しい。ワークシートの工夫、場の設定の工夫。
- 関わり合いを高めるための手立てが必要。「アドバイスできた人」と声掛けだけでもわかる。思考力・判断力を高める必要がある。
- 発表会を指導計画のゴールにする場合、教員同士、技の理解は深まってきたので連続技についての理解を深めることも必要。
- 具体的な授業の姿・具体的な学びの姿を共通理解し、研究を深めていく。場の設定や一言で変わるので教員の引き出しを増やしていく。
- つますきへの具体的な指導の研究していく。

どんな声掛けでできるようになったか。どんな場でできるようになったかなどを調査してみる。ポイントを整理して伝える。

- 技の精選 学年ごとの押さえておくべき技を明確にする。

